新約聖書哥羅西書

耶穌降生一个八百八十年

新終聖書昼羅西書 米國聖書會社中

明治十三年

日本横濱上梓

使 ずるころうもろうその聖徒とでいまることとと聞てるんちか 第一部神のもからようて耶稣キリストの使徒とるできる 神はられるゆをまるんちうか如此せんとを愛もるらるん 館と平康すらけより るんちろできるれ父るる神 そくろの聖徒とちゆうまんの兄弟なちまあくるあるち ウロあるが兄弟テモテニ書とキリストるあるコロ 徒ハウロ いのるとき恒よるとうの主りではキリストの父るる かめる天まれるる人 コロサイ人なあくるる書 解るんちろがキリスト りゅんと しゅんとくろのでの町さますとう あるびまいっちんキリストよう サイス

新約全書 哥羅西書第一章

自一至九節

きかきり且るんちうかこときときて神のめぐろと があるうちの福音へせりはるうちきかごとく顧う 忠き 信るるちのべるり、彼さきてるんちょう すりるんちょうのなめまたるだ祈祷をしっつの水ねが 3 いってきろの 更更 一日ようろんちろのうちと思をむもびまたく でいとできているとってのゆるるできかちの事とき とてろ のころぞれまつうてきり のものあう 愛さるある 世界する果をむをびて大よるとう エパフラスいるんちいのかめよキリスト 役者エバフラストうるんち ーとしろ 靈 0 8) 真为 婚にも 9 實る

事 能力とうて弱るり凡事よろこがて恒忍うろ久耐 ん とるうし のけんあよりできると教りだしてその愛子のくろうち として光るあるせいとの業の分をうくるにたるる者 ようで果とむないうつ神とあるにようて 土まれ神のさてての 権 るん 6 其かくろにあるがひて日をあろりまぐん 七小霊 たまる父のめくてとを感動 神旨をあり、もべてのことする たってきるその子よよりて贖 のしかってきまべてれ 威うちんがいて賜 せんころとさ 智慧と顧悟 さるそろ罪の なようちらず でろく 德 9 2 4 世

好 的全 書 野羅西書第一章

自十至十八節

大教會につきの身體うして彼いその首るりうきの元始よ らきたり且そのつくうきかられ彼がかあるりまってあ 或いくてるある者はそから主なるものあるかい政をしる はあるめの人のみをしてとならるもの見してをあざるもの まそん彼 ようきるあり萬物のきるようて存むとうるるう そまべてのことよつき長とあるんなめよ死のあるよう そまべてのつくろきしゅったようちきしゃれるり してうるるりまうまく人のみることとろざる神の あるひい権威あるとのようてのもの彼るようて よようて萬物へつくくきたり天よあるのの 状る 地。

地上よあるのの天よあるのかしして彼よようて已とゆる するが世界浄りけるく咎るくして己のまくながしめんと 三夫るんちろいりと題行とあるありよりて神るとはぎ もことしるんちろ信仰よくいまりその基をされるうる堅 とがりむることに是そのないろようるかことるといるう りかいまてその歌とるれるとのるりしが三神いまキリスト の肉のありだなもてその死」よりるんちっとして已とや 一めその十字架の血よよりて平和とる一萬物もるもち そろろいんの望ようろうずん める生しをあるうたそん父もべての徳ともて彼るみ 如此せることを得

新 的全 書 哥羅西書第一章 自十九至九七節

キリストのうちまををたて神のまくまなりしめんとるとう我 まるこというぞうりるるとるんちょうちんことと望ってかころろ してきがためる大能ともくてが東コはたっく者のもからき 我にくたいこまる面をいまだみぎる人のためころが心をうう ままからかかとつくして労もるあり のだけところの楽れのぞとるり云できる彼とつなべ各人 いるんちろのあろうつかくーキリストるう彼 を勢もるべいできるかいあいまよりてひとうよるう疑とい 第二部できるんちうわまびラオデキャスなるひとべきれ 諸般のちるとをそひとべと数ひとべとしして いるんちろの

新約全書等馬羅西書第二章

自北八至一章七節

りを神せのととして異邦人のらもるろうるを一奥義のさ 世歴代うくきだる奥義るりーが今その聖徒るあるつれた りてあまねく神のうとがをつくろんとに云此うとぞい歴 患難のうけたるとくろと補か宝をきるれちろのためま神 又での肉體ともイキリストの體をあるち教會のかめるその のちきかとくろの職」あれがひこの教會のつうへびとる をでく天下のきぐての人ようからきりってきだり口をの役者 とるぞだりの一年できるんだろのためようくる苦とよろことが しこの福音にまるちちるんちつのきりしとうろうり いうと豊あるとちしめんとあたまろうこの奥義

ちだ人のつちくと世の小學るあたがひ空言ある理學をも てあんちいの心とうぞんれるき神のみちかきる徳も ことべく形體とありてキリストスをありす まつりごと~権威のうしらるりるんちら彼るよりて全備 まることと得るりせるんちっ彼りちって手をもそせざる ううきいるうきるんちょバプテスマをうけて彼とまする 割禮とうく即にくのうりがをぬききるところのキリストれ うるとうて彼とするよ せる〇、るんちる慎うしゃそろく 死すり彼をようかつうせー神のはなるきを信 姓らさせんり さるんち 前 いキリストスただ 彼いきべん

新約全書一部羅西書第二章

自八至十十節

五

根とうきとあき彼るありて徳をかて又を一つをうけたる をあんざる信のらかきを見るかみるんちりまでもますり ストいらにを承がきを彼るありてらゆむうしさるんちょ るんちろととのくとりて喜るんちろが次序あるともリスト としつて安慰とえんことを欲まるるう三智慧と知識のた めてるんちろを数らとるそろんなある我られらのこととと りろう五 だらざる全きとうの富をたろう父るる神とキリストの奥義 い一切キリストスラをあるるう四 從てあんううとうかくしれとまちく大き 夫をき肉體いるんちろと離をるといくどの愛い 離りても巧言を

ですびい安息日のうとるより人をしてるんちるを議せし てのもれるホーキリストコよりて勝きれるのはこの故 つりごとととるとかと権威あるりのとはろば一彼今ともべ て日とわらるとのでそく人のりましめと教するたがひ むることあっきたこときるとはきなったとまるをのいます る規係のふと即るとくにきうろりのと塗抹ときと中間 きとうれとせる人まそのそうびととうるうるうき斯 よそがそられて長るり二をしるんちょ キリストとすると 天使とはいまることとよようてるんちょの褒美とあざむ てそのまっての うひい飲いとあるい食いとあるひい節期あるかい りる生しめは、のつ手うてあるせしとくろのできるとせむ ひて妄きはう首はつくこととせぞるるりた全體この らるよりもろくの節と維をもて相なをけ相つうるう とき人のりまだ見ずるをのとうなひ己のころろまたかが ありき當ありき觸ありきとりか 世のの そうさう せうかくようちるきかったうへるんだ世るあり 釘ともそその十字架ようけたまろう主又ま 形いキリストュフけりナルをうくだることと 律法の下るるるやころと スあ 月初 神

りろくのつみと身コラのきいあきとようりて死だるも

あり、されど神るんちっとしてもべての罪をゆる一彼とど

新約全書一野羅西書第二章

自十八至三章四節

謙 京和 リスト ちたうきるるろ みゆきども實いたかときりのにあって唯にくないの窓とみ 第三章既よるんちりキリストとをもよらかかりたれい りの禁じ かまくり あるかのとボッーキリストラーではありて神の おもよるうれ。夫るんちろの死しかのよくその命 うの規係いみづうり継まして拜もることをあし、うち 3 ときのよ神のうちょってきとるるう 身をあ かるものいまべて人ときを用きずつくろろう るんちろ天はあるものとあるい地 ーま ざるようて 智慧あってめるい THE ってはるう なるる 石ムゴー 0) 11 11 命 + 天ル

女べきるもち、偶像を拜もることるり、ころきるの 古多了多 次路 をつれるをうろういきまどるんちょう 7 1 るるキリストのありいきん 神 斯 ロようよろべしれなんちろまでる舊人とその行とぬぎ 悪事もうび志城 公然 暴戻とう 務請 こまってるす のころき人のあるる日をわくりしくきい此等の悪事 0 いろうちなんざるののないるなり、るんちうもうさ しきひとと不なるだったがひょ 行機を養 なり五 題欲わらび食婪をうろもべ ときてきるしてきてからり、葉 故 こるんちるの地である 肢 ちるきひ 読をり入るりき干 いまっているとう 語言とるんちう 事しよう 體 0

約全 書 問縣西書第三章

自五至十四節

うんじゃころのちち神とさんびまろ ら恩恵まったがベームキサストの道 為ところ てつくる気臓しなりてたがひょ まか平安をしてその心 愛とくろう よありてこの平安しいちる て充足し 大妻るろのあるその夫まちてちょ これをなし彼れ の諸事あるひ よ。あん あきべての 飛る い言あるひい えようてもころる をつ 智慧コより 德 帯るう つく どろう できるかうりからう 相忽 をしく 81 詩し歌 行みる主りでに 十五るんちょキリスト そるんちろの心 神るん ベー 才目表 ) ナン あよるん きるめ 此 靈 るん まった 思恵し 业 ようろ るん えあ

約全書

青溪西書第三章

自十五至七四節

きへ かの せも 聖察うの愛せてるりめとありたとを慈悲あらる き者ある ギリシャ ちたがいて知識しいたるるりま 自主の 思耐を衣と言るんちろ 3 べきことあるが 中4 でとうくるんちろ 05 21 見りる く ユダヤ るり大キリスト 130 夷秋らうひ 人ある 十二 あったよなり人とつろうしもう てきとゆうせキリストるん このゆるころんちろ も然も~ ひん い萬物のうへこありかま いスクテヤ人あるひい たがひょ 害]3 禮あるりのとうつきい うくめごくきょいくうて 容息 此りろく 神ようろう とる 奴隷あるい 0 事のろ 源流 2 すっちょう 像 恕 ての 7 3

傍をし ちれ 新約全書一哥羅西書第四章 第四章主人るるりのよるんちうもまし天山主 の ごとうこの奥義をあるとうとうめたまそんことをつうきる フねる祈祷をありたしくがしく感謝 とまる うたようみたるか 三不義をあるかりの バ義するこうかい 2 かめ キリスト 三また りるるべ るできんが のあくぎをうちろしめ 神でれらる道をつちる 公平とりてその僕 我ころあくぎのためようるがきたり なり、あんちる主るるキリストよううか 3 るし いかそのときのむとん 自生至四章十節 3 をあし m 我 0) とどからこう多 門をひし りんづきところ あるいこと 我和

もべ るものく 心とりて神をあそれてあれ をまる者れでとくない びたまかとううるう三父るるものよるんちろの子とりっ んちらまべ らまるるうと うるがでしくせに主こ 苦をりてことをあ 言そん るもなきことありたちるものよその 肉红 てのこと二親 るんちら 贈るつける主人よううかべし人とよろこ あそうくいその氣うるん三僕ある 目艮次 へ主 前等 るちれ しらかなりきってかるりのよる グ、言るんちる何 のこととつともることる よう ててるごとくいようころとと 報賞る グかべりことき主めよろこ 嗣謀をうくる 事もひとる 妻をあい めのよ

新 為全書 哥點西書第四章 報うちかがそんことをねがり き我のきかるんちょう リスト耶稣のあるかなるエバフラスるんちろうもをきと問 こようて安慰となりるりまるんちろのうちれ一人ろう んずうが完全とえ心とうううして立まづくめこうと神のむ きてつれるるんちろのかめる力をつくして祈祷とるし るんちうる安ととの割禮とりけりのの中ちらこれ三人 んちろう のことよつらくいるんずりまでよ命とうけたり彼りしる スタルコ できてきりる神 あらびバルナバ りからべてきを接了しまコストとるらくられて の甥でつるんちろう中をきと問ころ のくにれためよはくうけり就るきる 自十一至十八節 マコ

とと知るんちろのころをるべきありめんたあなりかま た思るるるがあいた 3 る後ラキコでか事ところくくるんちょる告をしせん すが愛きる兄銀ちゆうるる るんずる機とうでい智意とりて外るある人 るんちろ とうれときりる遺せりこのまる比處のこととをそうと 殊するんちょうつまれへ彼をしてるんちらの さるんちろの言つれる思とりちあうう監とりて調 さくった こつげるろせん いろうして各人ようたろうきうとまろん る鬼等るんちゃのうちれ一人るる 役者でれときりままっつら 十我とであるつるがなアリ 才

らできの思想をありくっちでもしい でった らとをア スープの

ポコいくるんち主はありて受しくろの職をついしみと あるがその家はある教會は中をきをとくまるんちろもで ラオデキャ らる安とと うとを證を古るとうが愛する階者ルカあるびデマスるんち ようませ爾僧もきくラオデキャよりきたる書とよめナセアルキ 書とうまだころとまたラオデキャ人のけらくると 大つきいり口親手るれちりる中もきと問るんち ヒエラボリ る あることのうからし 主請るんちろうオデキャの兄弟かちとヌンパス 思確るんちろとからり 甚らろと労まる





